

受理番号	受理年月日	件 名 及 び 要 旨	提 出 者	送 付 委員会名
30年 第5号	30.5.10	<p>米配車アプリ大手ウーバーテクノロジーズ社の日本進出に反対に関する陳情</p> <p>小泉改革の聖域なき構造改革の中に記載されていた規制緩和の大波が、日本のタクシー業界に再度押し寄せている。</p> <p>米配車アプリ大手ウーバーは、国内のタクシー会社と提携協議を開始。ソフトバンクグループ、トヨタ自動車、ソニーなどの業界は、共同出資や出資で新会社を設立し、AIの需要予測に基づきタクシーの配車効率化を目指している。</p> <p>米配車アプリ大手ウーバーの最終目標は、米国内で事業展開している自家用車に乗客を乗せるライドシェアである。</p> <p>法人タクシー会社は、土地、建物他に莫大な投資資金が掛かる。これに対しては、米配車アプリのシステムは自家用車を利用するために、初期投資は少額、維持費も安価、また働く人は登録時間内で働くことが出来る。</p> <p>また、収入は低額、昔のいわゆる横行した白タクをまとめた営業を認めれば、全国のタクシー業界は大打撃を受ける。タクシー業界で働く約37万人（国土交通省、交通政策白書平成29年度版）の人々の生活に多大な影響を与える。</p> <p>小泉内閣の規制緩和以来、運送業界全体は、低賃金、重労働の産業で人不足も深刻である。</p> <p>ここで一番重要なことは、タクシー業界が大きな痛手を受ければ、それは日本における中流階級が減少することである。社会を支える多くの中流階級の人々が減少すれば、ますます社会保障費が増大する。どのような社会でも規制は必要である。</p> <p>効率化を優先するのではなく、米配車アプリ大手ウーバーテクノロジーズ社の日本進出に反対である。</p> <p>よって、下記事項を陳情する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 米配車アプリ大手ウーバーテクノロジーズ社の日本進出に反対をする意見書を国に提出すること。</p>	<p>一輪のバラの会 代表 加藤 克助</p>	<p>総務企画</p>